



平成 30 年 7 月 23 日

会 社 名 株式会社インターアクション
代表社名 代表取締役社長 木地 英雄
(コード番号 7725 東証第一部)

アナリスト・機関投資家向け決算説明会を開催いたしました

当社は、平成 30 年 7 月 20 日(金)にアナリスト・機関投資家の皆様向けとして、平成 30 年 5 月期決算説明会を開催いたしました。

〈平成 30 年 7 月 20 日 (金) 11 : 00 ~ 12 : 00〉

1. 平成 30 年 5 月期通期業績サマリーについてのご説明 (代表取締役社長 木地 英雄)
2. 平成 30 年 5 月期決算詳細についてのご説明 (代表取締役副社長 木地 伸雄)
3. 平成 31 年 5 月期通期連結業績予想についてのご説明 (代表取締役副社長 木地 伸雄)
4. TOPICS についてのご説明 (代表取締役副社長 木地 伸雄)
5. 企業価値向上の取り組みについてのご説明 (代表取締役副社長 木地 伸雄)
6. 質疑応答

ご説明内容及び質疑応答内容に関しましては、以下に添付しております資料をご参照下さい。

以上

お問い合わせ先 :

神奈川県横浜市金沢区福浦 1 - 1 横浜金沢ハイテクセンター 1 4 F

株式会社インターアクション 経営管理部 IR 担当 宛

TEL 045-788-8373 FAX 045-788-8371 Eメール : ir@inter-action.co.jp

決算説明会

平成30年5月期(第26期)

(平成29年6月1日 ~ 平成30年5月31日)



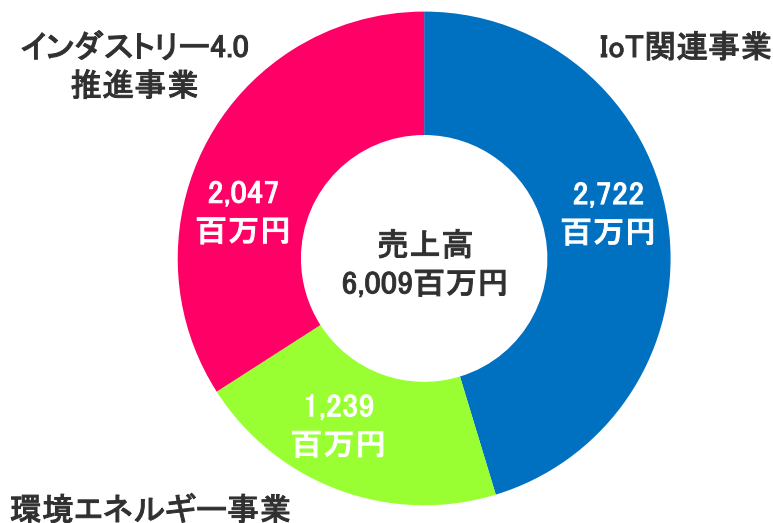
目次

1. 通期業績サマリー
 2. 平成30年5月期 決算詳細
 - ① IoT関連事業
 - ② 環境エネルギー事業
 - ③ インダストリー4.0推進事業
 - ④ 連結貸借対照表・連結損益計算書
 - ⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書
 - ⑥ 受注高・売上高・受注残高
 3. 平成31年5月期 通期連結業績予想
 4. TOPICS
 5. 企業価値向上の取り組み
- appendix - 会社紹介 -

1. 通期業績サマリー

通期業績サマリー

- IoT関連事業セグメントが好調に推移した結果、連結ベースでは大幅な増収、増益となり、過去最高益を更新した
- 東京テクニカルの完全子会社化における企業取得関連費用並びに新製品の開発費用等の計上に伴い、一時的な費用が発生した為、インダストリー4.0推進事業については上半期は1億円の損失と低調なスタートとなったが、下半期は3千万円の利益の計上となった



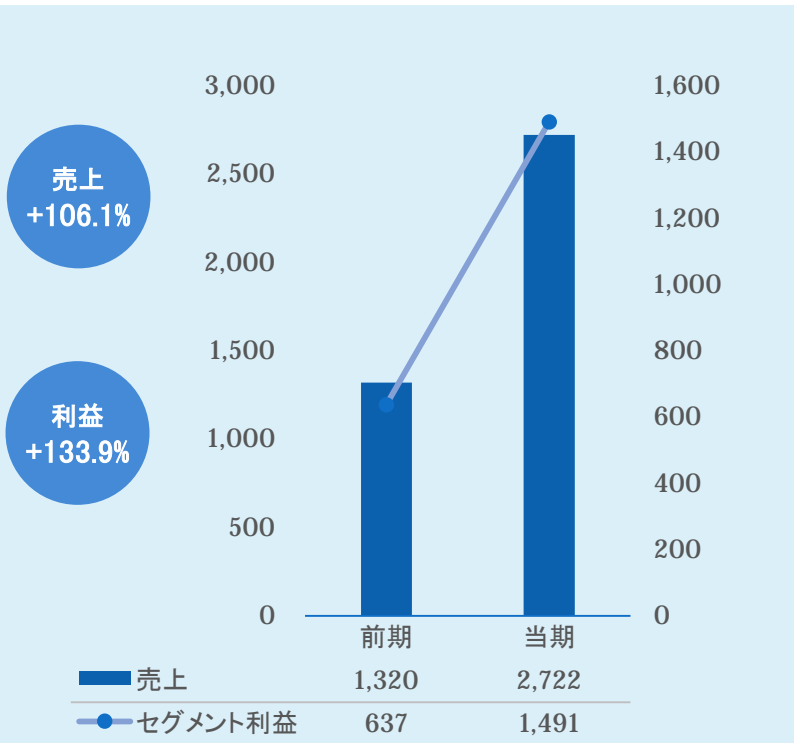
(百万円)	前期	当期	前年比増減率
売上高	5,369	6,009	11.9%
営業利益	435	1,006	131.1%
経常利益	417	988	136.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	394	686	74.0%
1株当たり当期純利益	41.52円	72.58円	-
ROE	13.2%	20.1%	-
ES	6.5%	13.3%	-

2. 平成30年5月期 決算詳細

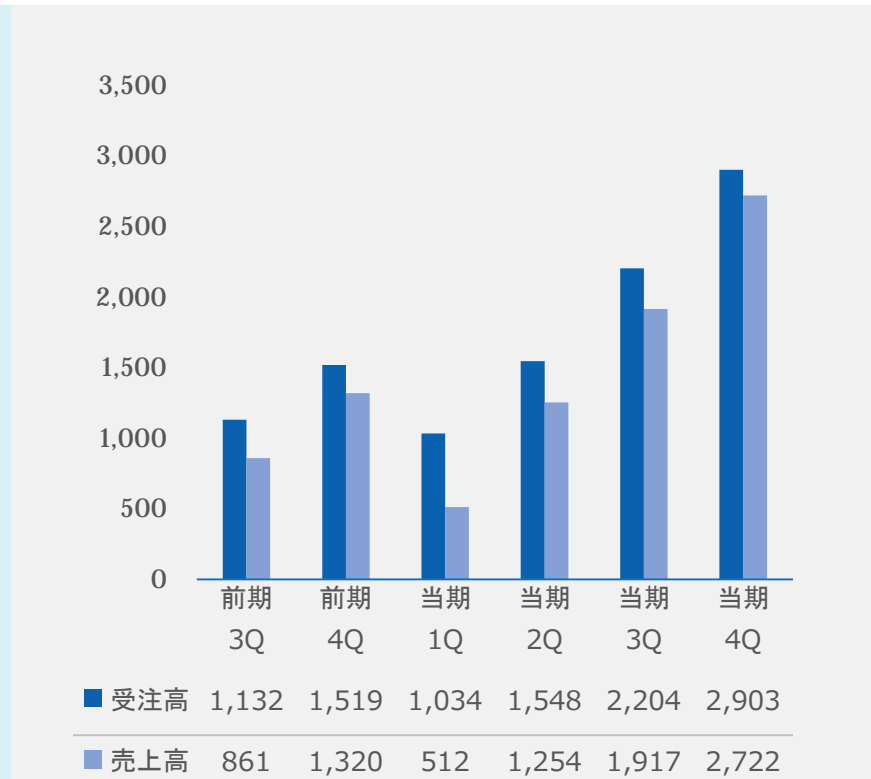
① IoT関連事業

➤ スマートフォンの高機能化や車両への搭載等によるイメージセンサの需要拡大を背景に、CCD及びC-MOSイメージセンサ向け検査用光源装置及び、瞳モジュールの販売数が好調に推移。新デバイス向けの光源装置についても売上を計上することができた

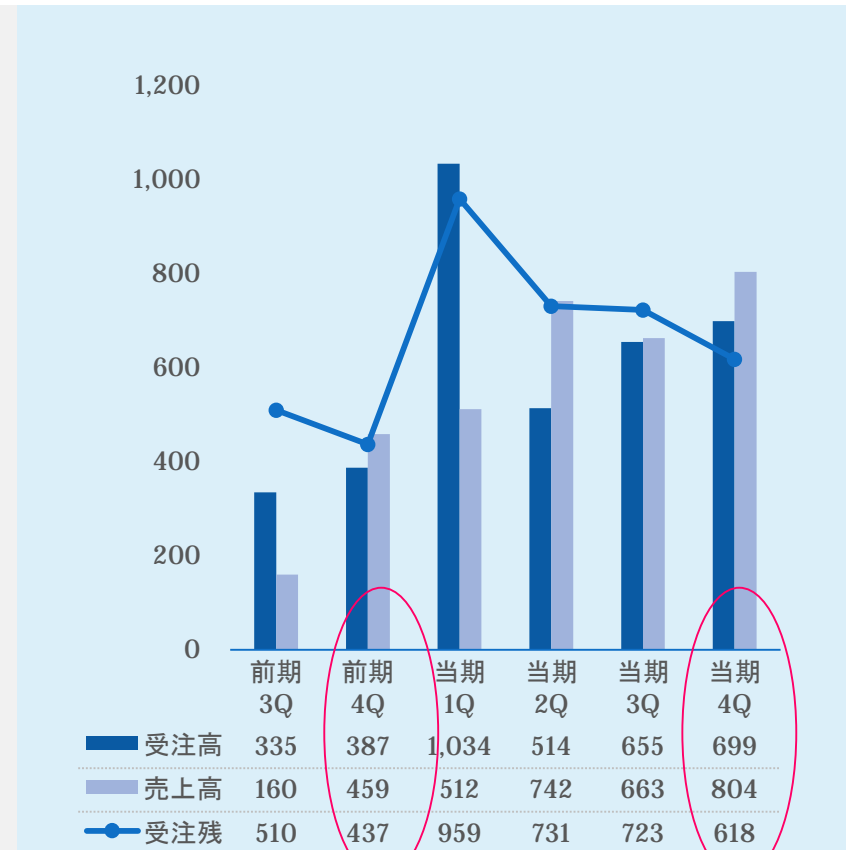
売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移(累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位:百万円

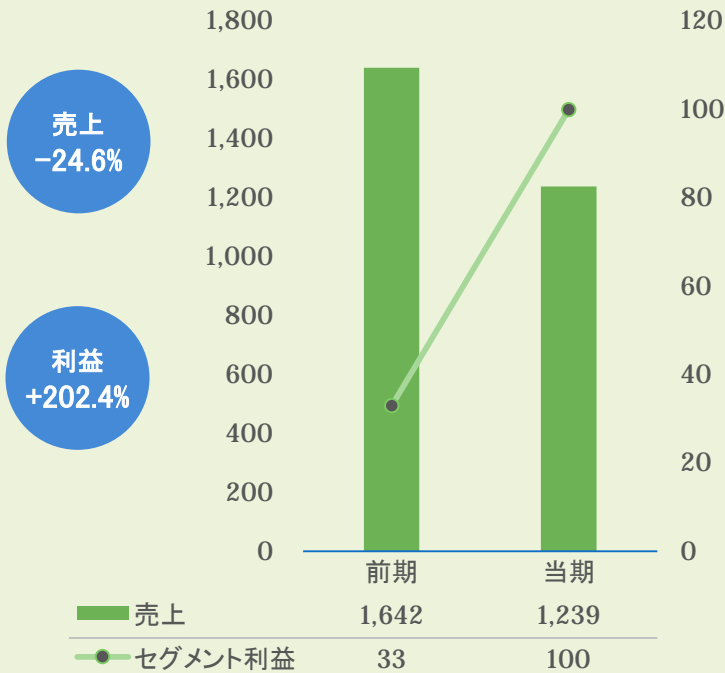
単位:百万円

単位:百万円

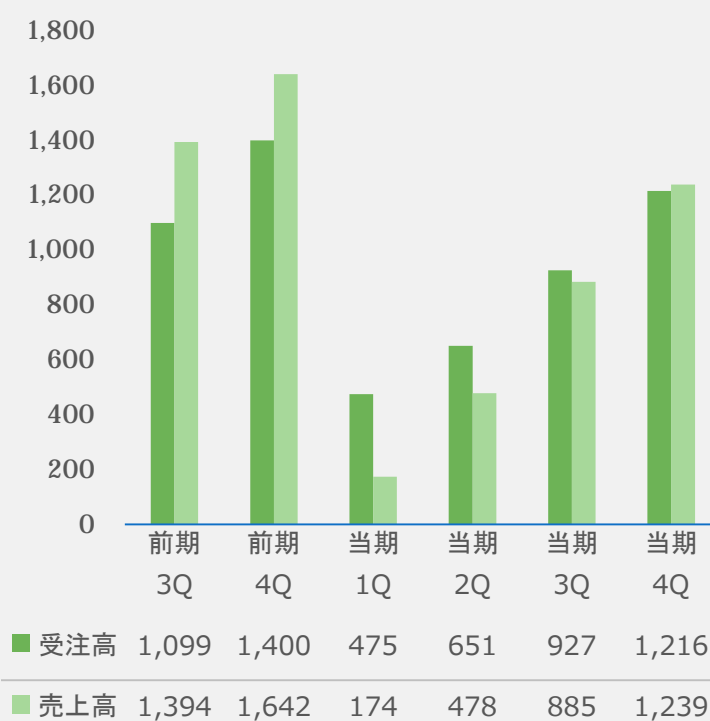
② 環境エネルギー事業

- 印刷機メーカーの設備投資の抑制等により売上高は低調に推移
- 一方、前期に不採算となっていた再生可能エネルギー事業から撤退したことにより利益率は大幅に改善

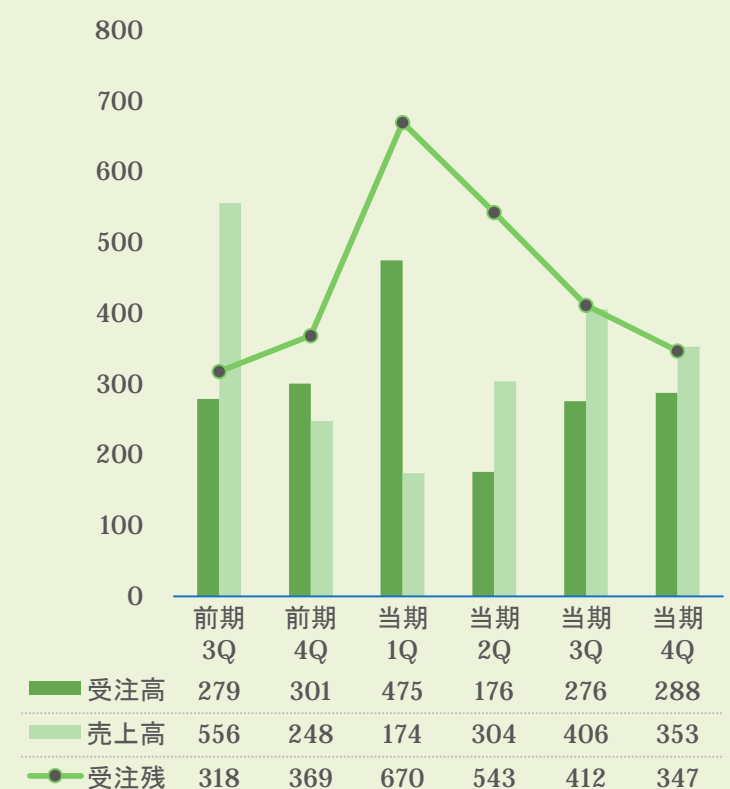
売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移(累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位:百万円

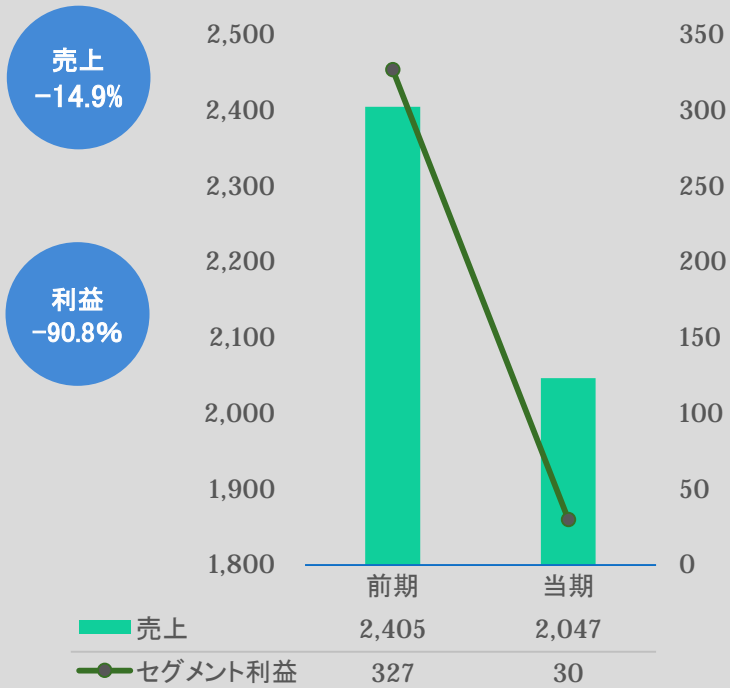
単位:百万円

単位:百万円

③ インダストリー4.0推進事業

- 精密除振装置の販売先である韓国有機ELディスプレイメーカーの設備投資の低調な推移に伴い減収
- 東京テクニカルの取得関連費並びにOlasonicの新製品の開発費等の一時的な費用の発生により上半期は1億円の損失と低調なスタートとなったが、下半期は3千万円の利益を計上
- Olasonicの新製品が有名ネットランキングで注目度No.1を獲得。有名アーティストとのコラボレーションを実現

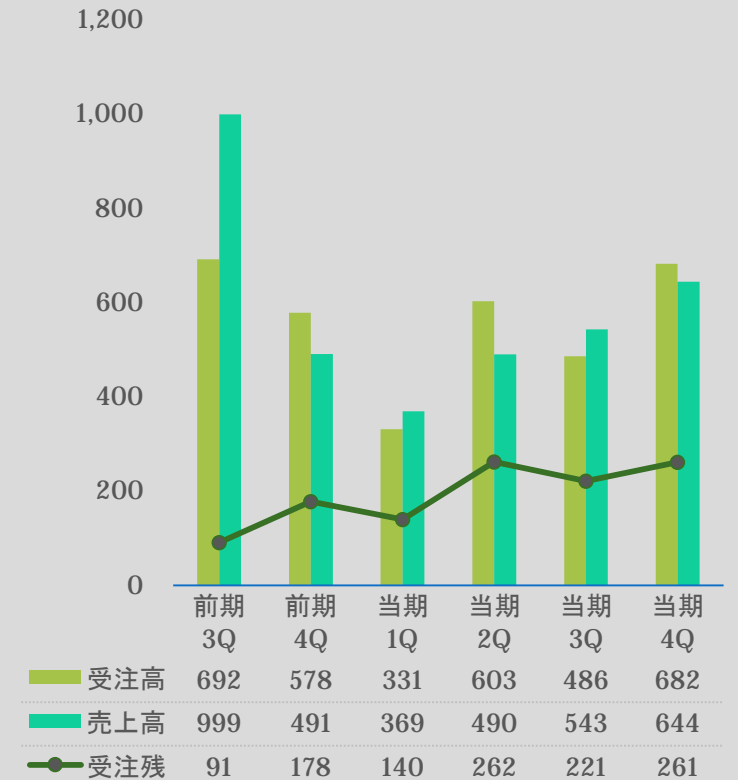
売上高・セグメント利益 前年比



受注高・売上高推移(累計)



受注高・売上高・受注残高推移(発生)



単位:百万円

単位:百万円

単位:百万円

④ 連結貸借対照表・連結損益計算書

連結貸借対照表

(百万円)	平成29年 5月期	平成30年 5月期	平成29年 5月期	平成30年 5月期
資産			負債	
資産 計	5,015	6,597	負債 計	1,880
流動資産	4,142	5,323	流動負債	1,257
固定資産	872	1,273	固定負債	623
有形固定資産	445	635		
無形固定資産	300	475	純資産	
投資・その他の資産	126	162	純資産 計	3,134
			株主資本	3,136
			資本金	610
			資本剰余金	1,513
			利益剰余金	1,232
			自己株式	-220
			その他の包括利益累計額	-1
資産 合計	<u>5,015</u>	<u>6,597</u>	負債・純資産合計	<u>5,015</u>
				<u>6,597</u>

連結損益計算書

(百万円)	前期	当期
実績		
売上高	5,369	6,009
売上原価	3,560	3,329
売上総利益	1,808	2,679
販売費及び一般管理費(注)	1,373	1,673
営業利益	435	1,006
経常利益	417	988
特別利益	115	-
特別損失	3	1
税金等調整前当期純利益	528	986
法人税、住民税及び事業税	121	295
法人税等調整額	12	4
法人税等合計	134	300
当期純利益	394	686
親会社株主に帰属する当期純利益	394	686

(注)販売費及び一般管理費のうち主な費用

研究開発費	68	109
のれん代償却	50	48

⑤ 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動による キャッシュ・フロー

463百万円

(百万円)	前期	当期
税金等調整前当期純利益	528	986
たな卸資産の増減額	△329	△538
その他の増減額	△351	153
小計	△152	601
利息及び配当金の受取額等	△127	△137
営業活動によるキャッシュ・フロー	△280	463

財務活動による キャッシュ・フロー

△205百万円

(百万円)	前期	当期
短期及び長期の借入による純支出	39	△251
社債による純収入・損失	△50	225
配当金の支払額	△59	△114
その他の増減額	△83	△65
財務活動によるキャッシュ・フロー	△153	△205

投資活動による キャッシュ・フロー

26百万円

(百万円)	前期	当期
定期預金による純収入	27	364
有形・無形固定資産の取得による支出	△120	△95
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△426
保険積立金解約による収入	—	178
その他の収入・支出	12	5
投資活動によるキャッシュ・フロー	△81	26

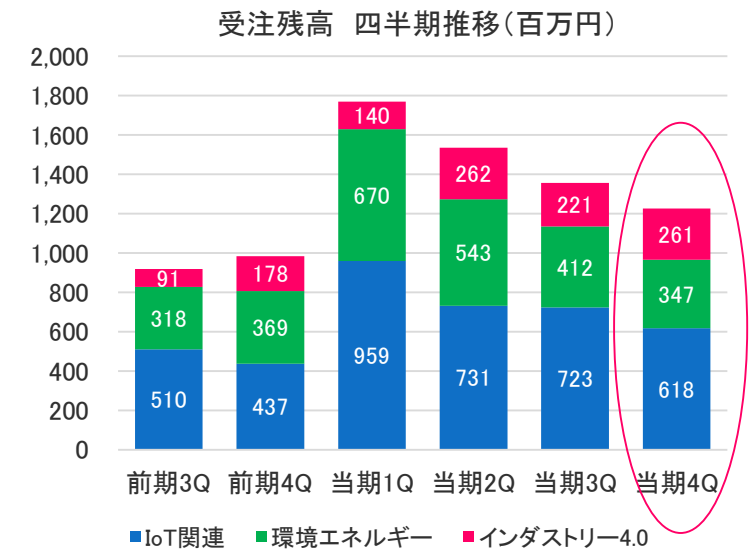
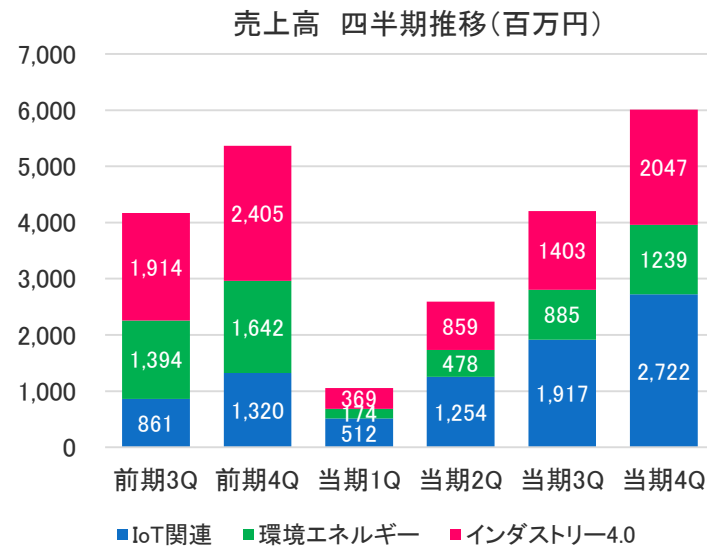
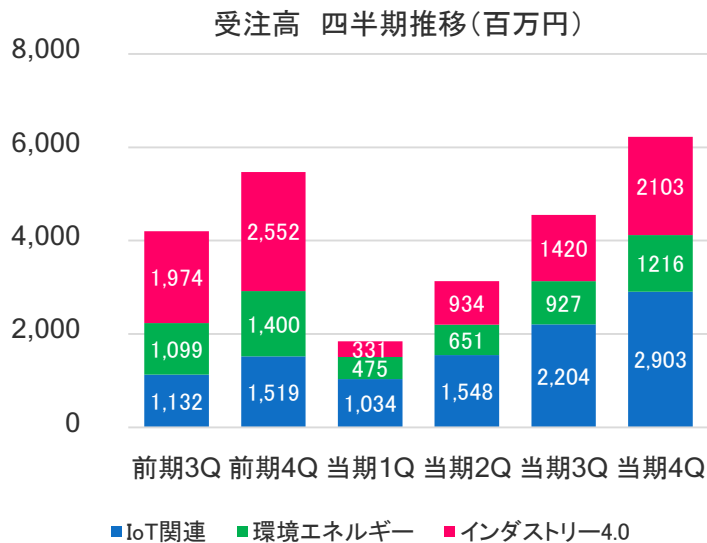
現金及び現金同等物の 当期末残高

2,220百万円

(百万円)	前期	当期
現金及び現金同等物に係る換算差額	6	0
現金及び現金同等物の増減額	△509	285
現金及び現金同等物の期首残高	2,444	1,935
現金及び現金同等物の期末残高	1,935	2,220

⑥ 受注高・売上高・受注残高

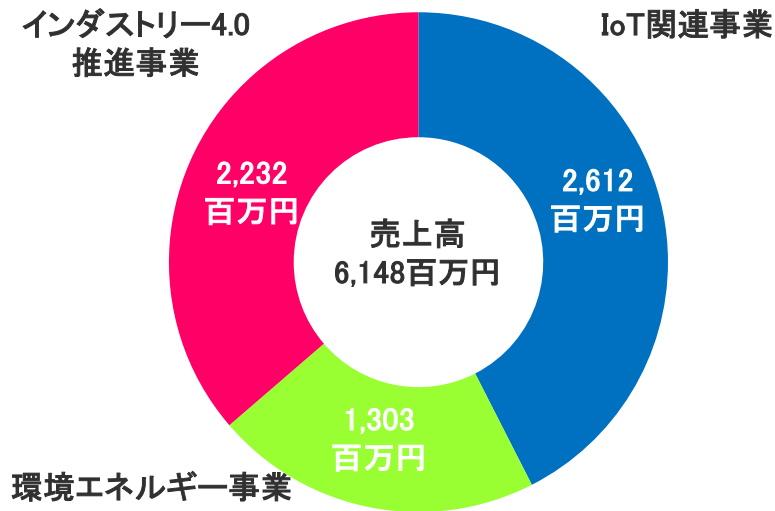
事業セグメント (百万円)	受注高		売上高		受注残高	
	当期	前年比増減率	当期	前年比増減率	当期	前年比増減率
IoT関連事業	2,903	91.1%	2,722	106.1%	618	41.3%
環境エネルギー事業	1,216	△13.1%	1,239	△24.6%	347	△6.1%
インダストリー4.0推進事業	2,103	△17.6%	2,047	△14.9%	261	46.8%
合計	6,223	13.7%	6,009	11.9%	1,227	24.5%



3. 平成31年5月期 通期連結業績予想

平成31年5月期 通期連結業績予想

- IoT関連事業の属するイメージセンサ業界においては、従来のスマートフォン向けに新たに車載用カメラ向けの設備投資が加わり当社製品に対する需要は引き続き堅調に推移すると予想。一方、過去最高益となった前期に対して売上高については微減と保守的に予想
- 環境エネルギー事業の属する印刷機業界においては、国内の設備投資は低調に推移すると予想。中国市場向け排ガス処理装置の販売を強化
- 精密除振装置の属するFPD及び有機ELディスプレイ業界においては、中国FPD及び有機ELディスプレイメーカーの設備投資が堅調に推移すると予想。また、歯車計測機の販売強化とOlasonic製品のラインナップの拡充に尽力



(百万円)	平成30年 5月期実績	平成31年 5月期予想	前年比 増減率
売上高	6,009	6,148	2.3%
営業利益	1,006	1,001	△0.4%
経常利益	988	1,010	2.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	686	606	△11.7%
1株当たり当期純利益	72.58円	64.16円	

4. TOPICS



週刊東洋経済 半導体関連 増益企業 ランキングの4位にランクイン

週刊東洋経済 2018年6/30号において、半導体
&電池銘柄（半導体）増益企業ランキング55社
の4位にランクインしました！

Olasonic



DADAレーベル向けモデルの発売

ミュージシャンのASKAさんが立ち上げた音楽
レーベルである「DADALレーベル」にて、ハイレ
ゾ対応USBパワードスピーカー（TW-S9）をベ
ースとしてオリジナルのチューニングを施した卵
型スピーカーを発売しました。
ファン向けに発信するSNSサイトで販売され
ると、瞬く間に完売になるほど話題になっていま
す。



世界最高音質を目指した新商品 Bluetoothスピーカーを発売！

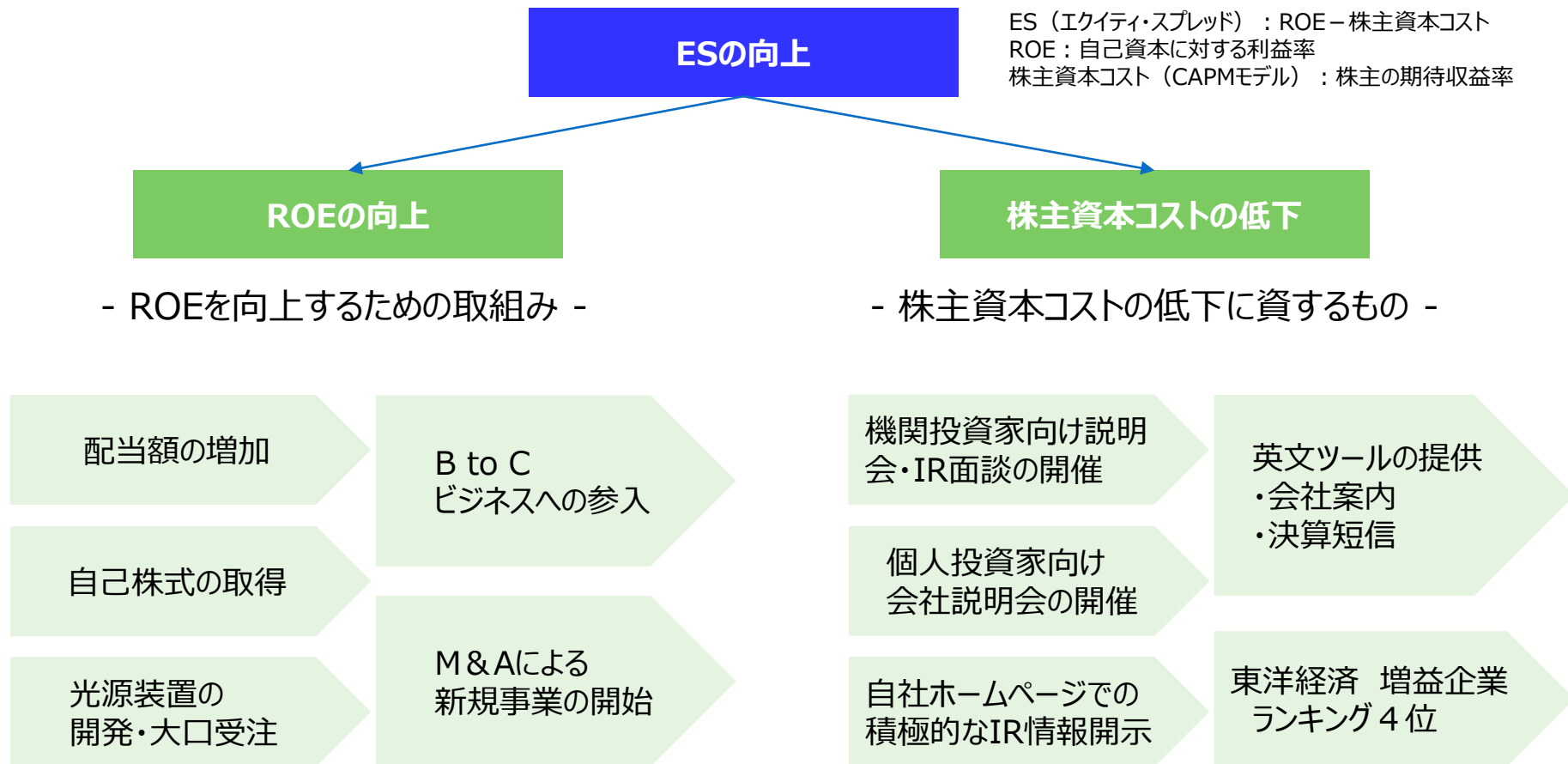
Olasonicが持つ高音質スピーカー技術と木製
高音質キャビネットを融合し、感動の最高音質
をスマートフォンユーザーに届けるべく開発した
新商品『IA-BT7』を新生“Olasonic”ブランドの
第一弾として発売しました。
有名アーティストとのレコーディングを手掛ける
エンジニア集団による音質チューニングでサウ
ンドイメージをリアルに再現しています。

5. 企業価値向上の取り組み

企業価値向上の取り組み

➤ 29年5月期ROE:13.2% 30年5月期ROE:20.1% 株主資本コスト:6.8%

29年5月期 ES:6.4% 30年5月期 ES:13.3%





注意事項

本資料に記載されている情報には、将来の業績等に関する見通しが含まれております。これらの見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づいて当社グループにより判断されたものであり、様々な潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。実際の業績等は、今後の事業領域を取り巻く経済状況、市場の動向等の影響を受けるものであり、記載された見通しと大きく異なる結果となることをご承知置き下さい。

本資料で提供している情報に関しては、万全を期しておりますが、その情報の正確性及び完全性を保証するものではありません。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がございますので、予めご了承ください。

事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。



appendix - 会社紹介 -

会社概要

Company profile

商号	株式会社インターアクション INTER ACTION Corporation	上場市場	東京証券取引所 市場第一部
設立	1992年6月25日	証券コード	7725
代表者	代表取締役社長 木地 英雄	事業年度	自6月1日 至5月31日
資本金	6.1億円	URL	http://www.inter-action.co.jp
従業員	191名(2018年5月末時点 グループ全体)	グループ会社	株式会社エア・ガシズ・テクノス 明立精機株式会社 株式会社東京テクニカル 西安朝陽光伏科技有限公司 陝西朝陽益同精密設備有限公司 MEIRITZ KOREA CO.,LTD MEIRITZ SHANGHAI CO.,LTD Taiwan Tokyo Technical Instruments Corp.
本社所在地	神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14階 TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371		
事業所	横浜市中区・千葉市中央区・熊本県合志市		

経営方針

Strategy

重要指標

Equity Spread
ROE
WACC

配当方針

総還元性向30%

M&A方針

成長分野・今後成長を見込める分野であること
培ってきた技術や事業のノウハウが、事業展開に活用できる分野であること
5年間の想定キャッシュ・フローをWACCで割り引いたNPVがプラスになること

事業ポートフォリオ

Port folio

環境エネルギー事業

印刷機向け乾燥脱臭装置
排ガス処理装置

IoT関連事業

CCD・C-MOSイメージセンサ向け
検査用光源装置・瞳モジュール

インダストリー4.0 推進事業

精密除振装置
業務システム開発
3Dモデリング設計
歯車検査装置
Olasonic

メール配信サービス

インターアクショングループに関する様々な情報をメールでお届けします

当社HP「メール配信サービス」画面

http://www.inter-action.co.jp/ir/ir_mail/

もしくは下記QRコードよりご登録下さい。

ご登録いただきました情報は、IRメール配信サービスのみに使用します。

個人情報の取り扱いにつきましては、当社ホームページに記載しております「個人情報保護方針」をご参照下さい

<http://www.inter-action.co.jp/privacy/>



お問い合わせ

株式会社インターアクション

経営管理部 IR担当

神奈川県横浜市金沢区福浦1-1 横浜金沢ハイテクセンター14F

TEL:045-788-8373 FAX:045-788-8371

<http://www.inter-action.co.jp/inquiry/>

HPお問い合わせ画面よりお問い合わせ下さい



質疑応答（抜粋）

質問 1： IoT 関連事業に関して、2019 年 5 月期の計画上の受注計画と、それに伴い第 3 四半期及び第 4 四半期で膨らむポテンシャルが、どの程度あるのかを教えてください。また、その際の受注の国内外の比率を教えてください。

回答 1： IoT 関連事業につきましては、今期、26 億 1200 万円の売上及び 27 億円～28 億円の受注を予想しております。どの程度上振れるかに関しましては、数値として表すのは困難ですが、精査してまいりたいと思っております。前期は売上 16 億円の期初予想に対し実績は 27 億円でしたが、そこまでの上振れ程はないものの、今期に関してもある程度はあるかと思っております。

光源装置に関しましては、国内外比率は国内 6 に対して海外 4 を予想、瞳モジュールに関しましては、国内 8 に対して海外 2 を予想しております。瞳モジュールについては、これまで入っていなかった海外の受注が徐々に入り始めており、その受注がどこまで伸びるのかが予想を上振れる要因となると思われま

質問 2： インダストリー 4.0 推進事業に関して、中国の有機 EL に動きがあるとのことだが、ビジネスポジションや進捗を教えてください。また、一台あたりのロットやマージンを教えてください。

回答 2： インダストリー 4.0 推進事業の精密除振装置に関しましては、当社は韓国の装置メーカーに製品を納入しており、その韓国の装置メーカーが中国の有機 EL メーカーに設備を入れております。韓国の装置メーカーに対しては、競合はいるものの独占的であると考えております。

一台あたりの金額ですが、アクティブ除振装置の価格については 400 万円程、パッシブ除振装置の価格については 100 万円程となります。中国では有機 EL 以外の、計測器メーカーなどにもアクティブ除振装置の引き合いが増えはじめており、中国においてハイテク産業を育てる流れになっているのではと考えております。

質問 3： IoT 関連事業に関して、取引先からの光原装置と瞳モジュールへの要求がどのように変化しているのか教えてください。また、開発と製造、お客さんとの打合せ、ラインの設置に関して等、ボトルネックになっている事があれば教えてください。

回答3： お客様の要求事項に関しましては、可視光から近赤外光・赤外光にシフトしてきており、当社の技術が活きる状態になってきております。

また、製造の体制に関しましては現在組立てと検査を中心として行っております。よって製造のボトルネックは少ない一方、開発に関してはいかに回転をよくするかが課題であると考えております。これに関しましては、東証一部へ市場変更したことや **Olasonic** 製品の普及の影響もあり、採用に関する外部環境もよくなっています。これを追い風に開発の体制を整えお客様の要求にお応えすることで、引き続きこの分野でのリーディングカンパニーとなっていきたいと考えております。

質問4： 今期は光源装置と瞳モジュールの収益に関しては、ウエハー上で個々のイメージセンサを検査する瞳モジュールよりも、イメージセンサを測定する光源装置本体の方が売上としては多くなるのか。

回答4： お客様の設備投資が増えるときには光源装置、装置の稼働率が上がるときには瞳モジュールの売上が多くなります。それを踏まえたと、今期は光源装置の売上が伸びると考えられますが、前期に販売した光源装置の稼働率があがれば、瞳モジュールも伸びてきます。また、海外の光源装置にも瞳モジュールが入りだしましたので、そこでの伸びが楽しみでもあります。

質問5： インダストリー4.0 推進事業に関して、今期の東京テクニカルの売上と利益の寄与はどれくらいを予想しているかについて教えてほしい。

回答5： 今期、東京テクニカルの売上は8億円程、利益は1億円程を予想しております。前期も上半期の途中から当グループに加わりましたが、その中で非常に収益に貢献いたしました。こちらの分野に関しましては競合は少なく、今後は東京テクニカルの接触の技術と、当社の従来の非接触の技術を組み合わせて面白い製品の開発をしていきたいと思っております。

以上